

数学

正の数、負の数

正の数、負の数、自然数、絶対値、不等号

正の数と正の符号、負の数と負の符号

0より大きい数を^{せい}正の数といい、+ (プラス)の正の符号で表す。

0より小さい数を^ふ負の数といい、- (マイナス)の負の符号で表す。

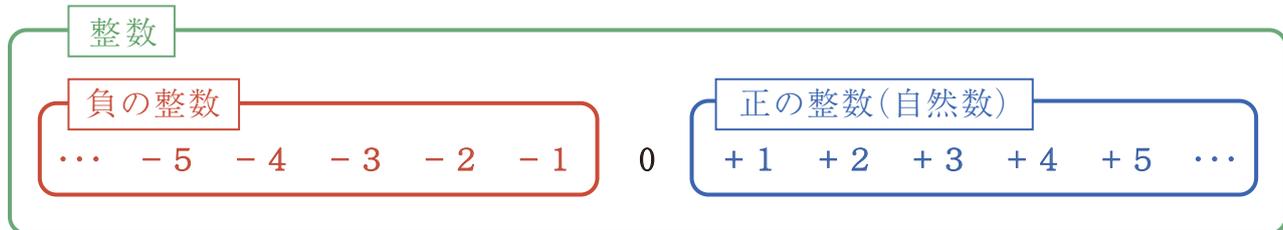
たとえば、0より2大きい数は「+2」、0より2小さい数は「-2」と表す。

正の整数、自然数、負の整数

整数は^{せいすう}正の整数、0、^ふ負の整数の3つに分けることができる。

正の整数は^{しぜんすう}自然数ともいう。

0は正の数でも負の数でもない数となる。



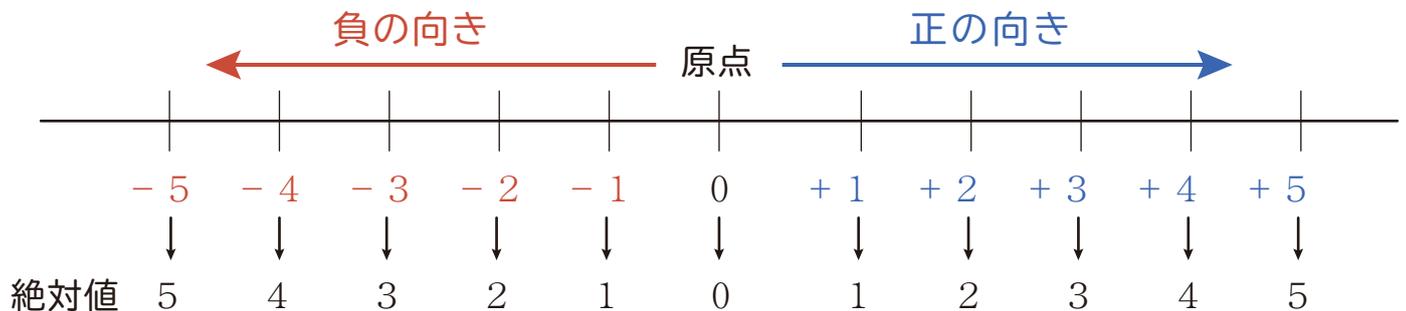
数直線と正の向き、負の向き、絶対値

^{すうちよくせん}数直線で0に対応する点は、原点という。

原点から正の数への向きを、**正の向き**という。

原点から負の数への向きを、**負の向き**という。

数直線上で、原点(0)から、ある点までの距離を^{ぜったいち}絶対値という。



数の大小と不等号

数の^{ふとうごう}大小は不等号で表すことができる。

$$-3 < +2$$

$$-4 > -7$$

$$-8 < -2 < +6$$